

令和6年度 学校評価表

《学校教育目標》	＜定時制教育目標＞
幅広い教養と高い専門性を追求し、社会に開かれた学びをとおして、平和な未来に貢献できる心豊かな人間を育成する。	多様な教育ニーズを持った生徒に寄り添った多様な学びの場を提供することで、一人一人が社会的に自立し、平和な未来に貢献できる心豊かな人間を育成する。
	今年度の重点目標
	1. ライフスタイルや学習状況に合わせた学習支援と基礎学力の定着 じっくりと時間をかけてわかる授業、伸びる授業を工夫して基礎学力の定着を図る。 学習状況の実態を把握し、各教科において「学び直し」等により、個に応じた学力の伸長を支援する。 2. 個に寄り添った教育の充実といじめ・体罰のない安心・安全な学校づくり 外部機関・保護者・地域社会と協働した支援を学校全体で継続的にを行い、すべての生徒が安心・安全な学校生活を送ることができる学校づくりを進める。 3. 生徒を社会へつなげるためのしくみづくり 定時制教育振興会や、就労支援の外部団体、ハローワークや地元の教育機関との連携により、生徒の就業体験の機会を増やし、進路実現のためのしくみを構築していく。

【評価の基準】 A：十分 B：おおむね十分 C：やや不十分 D：不十分

領域	重点目標とのかわり	大項目	目標や評価の項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善 向上策等
教科指導・学習活動	① ②	授業・学習の充実	基礎・基本の定着	高校生として必要な最低限の内容を各教科で検討し、その定着を図ることができたか。	基礎学力の定着では一定の成果があった。社会生活に必要な力（ソーシャルスキル）も身につけつつある。	B	中学以上のレベルの学力が定着するよう指導するとともに、社会常識も身につけさせたい。
			個に応じた学力支援	「学び直し」等により、生徒ひとり一人にあった学習支援ができたか。	「ベーシック」授業で「学び直し」の支援を行っている。生徒個々に対応するには、さらなる工夫が必要である。	B	生徒の学びを促すため、授業の工夫、職員間の情報交換を恒常的に行う。
			授業評価の実施	生徒による授業評価を行い、それを反映した授業づくりができたか。	生徒による授業評価(年2回)を授業に概ね反映することができた。	B	改善点・課題を明確にして授業内容の向上に更に努めたい
生徒指導	① ②	生徒指導の充実	安心・安全な学校づくり	日頃より声掛け、面談などで生徒の心の変化に気づき、適切な対応ができたか。学校生活アンケートなどで生徒の実態をつかみ、生徒が安心・安全に学校に通える環境づくりができたか。	特別支援委員会など、教員全体で連携を密に取り合いながら、学校生活の各場面で生徒の実態把握に努力した。	B	生徒の見守りや、生徒とのコミュニケーションを日常的にとり、生徒および保護者と繋がり合う生徒指導を行いたい。
			予防的・啓発的生活指導	反社会的行動についての知識・理解を深め、マナー・ルールを守り規則正しい生活ができるように指導できたか。	掲示による注意喚起等を行ったが、徹底に至らない面もあった。LHRや外部講師による講演会などを設けて指導できた。	B	全校生徒が集まる機会に呼びかけを行いたい。講話については、生徒の出席率を高めるとともに、内容の充実をはかりたい。
自主活動・特別活動	② ③	部活動の充実 生徒会での取り組み	生徒個々の能力・自主性の指導・援助	部活動を通して個人の能力や自主性を高めるための指導・援助を行うことができたか。	部によっては北信越大会に出場した。練習時間を確保し、技能向上を目指し、生徒が自主的に練習をしていた。	A	生徒が十分に技能向上ができるように、練習時間を確保していきたい。
			生徒会行事への取り組みと集団との関わり	生徒会行事へ積極的に参加するとともに、計画・実行の過程で、周囲と協調して活動する指導ができたか。	昨年度開催できなかった文化祭を、生徒主体で実行することができた。また、生徒会行事も、協力して行えた。	A	今年度は、教員主導で生徒会活動を行ってきたが、来年度以降、生徒がリーダーシップをとれるよう、指導したい。

進路指導・キャリア教育	③	進路指導・キャリア教育の充実	進路ガイダンスの充実	全ての生徒に進路情報の提供と説明を十分に行い、生徒個々に応じた職業観を持てるように指導ができたか。	例年のように各学年で情報提供を行った。学年や生徒個々に応じた進路指導を充実させたい。	B	生徒の要望に可能な限り応えられるように、情報提供や説明を丁寧に行っていきたい。
		定時制教育振興会・関係諸機関との連携強化	定時制教育振興会・関係諸機関との連携	関係諸機関との連携や定時制教育振興会の協力を得ながら、求人開拓や就労体験の機会を設けることができたか。	ネスクイイダとの情報交換・授業見学、企業見学に参加した。今後も積極的に連携したい。	B	関係諸機関と繋がり、生徒の要望に応じて、就業体験やアルバイトから就職への道を探っていきたい。